

一九九九番

あからひく しきたへの児この しば見みれば
人妻ひとつまゆゑ故こに 我あれこ恋こひぬべし

二〇〇〇番

天あまの川がは 安やすの渡わたりに 舟ふねう浮うけて 秋あきた立たつ待まつと
妹いもに告つげこそ

二〇〇一番

大おほぞら空そらゆ 通かよふ我われすら 汝なが故ゆゑに 天あまの川かはち道ぢを な
づみてぞ来こし